

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「埼玉県方式によるシカ柵設置作業」（埼玉県秩父市 中川国有林）

（撮影者：埼玉森林管理事務所 森林技術指導官）

- 「ミス日本みどりの女神」飯塚帆南さん来局 企画調整課 2
- カラマツ断幹現地検討会
カラマツ採種園の整備と種子の安定供給に向けて 森林整備課 3
- 平成27年度間伐推進コンクールで受賞者決定 資源活用課 4
- 小笠原の森林保全活動報告会 小笠原諸島森林生態系保全センター 5
- 森づくり最前線 会津森林管理署坂下森林事務所 首席森林官 佐藤信雄 6

「ミス日本みどりの女神」飯塚帆南さん来局

いづかほなみ

総務企画部 企画調整課



右側 大澤群馬県知事

「第48回ミス日本コンテスト」(1月25日)で、新たに「ミス日本みどりの女神」に選ばれた飯塚帆南さんが、3月28日、関東森林管理局を訪問しました。

飯塚さんは、群馬県藤岡市生まれ。農林水産大臣から「みどりの広報大使」にも任命され、今後は全国植樹祭などの式典への参加や緑の募金活動などを通じて、森林の大切さや木材利用の意義などを幅広く社会に発

信する役割を担います。

来局にあたり、漆原勝彦局長をはじめ、日光森林管理署の永町奈津美、森林官も交え、和やかな雰囲気の中、関東森林管理局の国有林や業務内容、現場を管理する森林官の仕事などについて説明を行いました。

飯塚さんからは、「森林官のお仕事はとても大変そうですが、重要なお仕事ですね」といった感想や、「実際に植付作業を体験したり、林業機械の講習を通じて、森林・林業への理解を深めながらPRしていきたい」といった抱負が語られました。

なお、関東森林管理局の訪問後は、群馬県庁なども訪れ、大澤正明群馬県知事も面会しました。



中央 漆原局長、右側 永町森林官

いづか ほなみ
飯塚 帆南さん
 出身地 群馬県生まれ 兵庫県育ち
 学 歴 国際基督教大学卒
 特 技 英語 中国語 クラシックバレエ サッカー
 趣 味 ボランティア活動 森林浴
 将来の希望 国連職員になり、
 発展途上国の開発に携わること

カラマツ断幹現地検討会

カラマツ採種園の整備と種子の安定供給に向けて

森林整備部 森林整備課

関東森林管理局では、森林資源の充実に伴い、資源を有効利用するための伐採が進みつつありますが、伐採後に再造林を行うことは次世代の森づくりのために欠かせません。

このような中、群馬県内では主にカラマツ苗木を生産するための種子が供給不足となっていることから、昭和36年に造成されました。種子生産の実績が無かったため、平成12年に廃止となっていた旧田代第一採種園（吾妻森林管理管内）を平成27年再設定し、森林総合研究所林木育種センター、群馬県林業試験場及び吾妻森林管理署が「田代第一採種園の活用に関する協定」を締結し、本年度、除伐、枯れ枝落とし、管理道整備等を行ったところです。

○カラマツ断幹現地検討会

平成27年11月19日、田代第一採種園（群馬県吾妻郡嬭恋村大字田代字森影国有林210イ林小班に位置し、面積2.29畝、平均標高1130m、現況本数はカラマツ414本、34クローン）において、民有林関係者等、約50人が参加し開催されました。

カラマツは、着花促進について不明な点が多く、来年度から採種園整備の一環として断幹を予定していることから、断幹の考え方と作業法について試験、研究し、今後の採種園整備も含めた事業に活かしていくため、開催しました。

当日は、岩手県林業技術センター 研究部の蓬田氏を講師に迎え、東北森林管理局と共同で行っているカラ



現地検討会

マツ断幹の作業方法と考え方について、事例紹介を行いながら、高所作業車を用いて、剪定と間伐を組み合わせて受光量を増す方法等を紹介していただきました。



カラマツ断幹実演

今後は、「田代第一採種園の活用に関する協定」に基づき、今回の現地検討会を活かしてカラマツ種子の安定供給を行うため、採種園の整備及び調査・研究を行ってまいります。



田代第一採種園

※カラマツ断幹とは？
カラマツは、スギと比べ、着花年数が遅く、陽光を多く必要とします。

スギは薬剤ジベレリンを散布（埋め込む）することにより容易に着花するのに対し、カラマツは、有効な薬剤はなく、着花が難しいと言われています。また、下向きの枝につきやすく、3〜4年経過した短枝に着花します。

断幹は、着花しやすい樹冠（形）となるよう幹を切り、陽光の改善を行い、開花結実を促進する方法の一つです。

平成27年度国有林間伐推進コンクールで受賞者が決定

森林整備部 資源活用課

国有林間伐推進コンクールは、国有林野事業における間伐等の発注事業や立木販売において、優れた品質の森林整備を行うとともに、高い生産性等や作業システムの特徴や成果等の取組を競い、優秀な事例を決定しています。

その優秀な事例を公表することにより、高効率かつ低コストな間伐等について民有林を含めた普及、定着及び推進に資することを目的として、今年度で14回目を迎えました。

- ① 「車両系搬出間伐部門（初回）」、
 - ② 「車両系搬出間伐部門（2回目以降）」、
 - ③ 「車両系誘導伐等部門」、
 - ④ 「架線系搬出間伐部門」、
 - ⑤ 「架線系誘導伐等部門」、
 - ⑥ 「その他」
- があります。

平成27年度のコンクールは、有識者で構成する審査委員会を経て、「車両系搬出間伐部門（2回目以降）」

で最優秀賞1事例、「架線系搬出間伐部門」、「車両系誘導伐等部門」でそれぞれ優秀賞1事例が選ばれました。

最優秀事例は、九州森林管理局管内の永島林業株式会社（宮崎県小林市）で、林野庁長官より表彰されました。

受賞事例は、既設の作業路を活用した森林作業道を配置することで、各工程の作業効率を向上させるとともに、これまではチェーンソーで造材していた大径材を、高性能林業機械（ハーベスタ）を導入し、造材することで造材工程の作業効率を向上させ、生産性が4.86㎡/日から90.0㎡/日と85%アップし、生産コストも25%の低減が図れました。

なお、平成27年度の受賞事例も含め林野庁のHPにて取組事例を公表しています。

関東森林管理局では、静岡森林管理署管内の株式会社富士森林サービス（静岡県富士宮市）が車両系搬出

間伐部門（初回）で、緩斜面で複数の小型グラップルを利用してリレー方式で集材することにより高生産性と低コストに取り組んだ事例を、局長賞として表彰しました。



小型グラップルでリレー形式で集材する様子（静岡署）

今月の表紙

埼玉県方式によるシカ柵設置試験作業

埼玉県内におけるニホンジカの個体数は増加の一途をたどり、枝葉の採食害や幹の剥皮等による被害が増大しており、その対策は、喫緊の課題です。

写真は、埼玉県が考案した簡易構造で安価な新方式の獣害防護柵（さいねっと）を、国有林において試験的に埼玉県秩父森林振興センターの指導の下設置したものです。設置後、センサーカメラで観察の結果、シカは進入を試みるも諦めて帰っていく様子が見られます。今後も、シカ等の食害対策については、地域の林業関係機関と連携を図っていくこととしています。



小笠原の森林保全活動報告会

小笠原諸島森林生態系保全センター



父島の小笠原ビクターセンターで2月25日、母島の母島小中学校で27日に、小笠原村民や観光客の方々に向けて、小笠原諸島森林生態系保護地域の意義、固有の森林への修復の取組、モデルプロジェクトの取組などを知っていただく機会として、「小笠原の森林 保全活動報告会」を開催し、父島46名、母島28名の参加がありました。

保全センターからの「森林生態系保護地域「国国有林」」の報告のほか、父島会場では、



父島会場

・(一社)日本森林技術協会「小笠原の森林の再生への期待」

・小笠原自然観察指導員連絡会「サンクチュアリー」の保全活動「未来へ向けて過去を創る」

・宇都宮大学名誉教授 谷本丈夫氏講演「小笠原の森の時間軸」
母島会場では、



母島会場

・駒澤大学教授 清水善和氏講演「母島の森「地理的、歴史的な大俯瞰によるロマン」」

・(二社)日本森林技術協会「母島の「やま」を昔に戻すには」
のプログラムをお聴きいただきました。

谷本先生からは、これまで歩かれた諸外国の森林の成り立ちから、土

壤、気候による森林の違い、小笠原の気候や光環境などの林内環境による更新や生育の違いなどを、清水先生からは、小笠原の島の誕生と森の成立についての仮説、母島の巨大な湿性高木林の戦前から1983年台風被害を経た現在への変遷などをお話いただきました。

平成17年4月から開始しているモデルプロジェクト「アカガシラカラスパトサンクチュアリー」などの協定先である小笠原自然観察指導員連絡会の深澤会長からは、取組について発表がありました。小笠原の固有亜種・天然記念物・絶滅危惧種であるアカガシラカラスパトが2002年には父島でのハトの生息数7羽と言われ、目撃例も少なく、島民の認知度が低かったこと、自然観察にとっても適した地形であったことなどから、ハトの生息域・繁殖地保護・保全と自然観察等の利用を両立するため、雨水や踏圧からの保護のための木道の整備、外来植物の根からの抜き取り、ゲンゴロウ池の改修など50年、百年、2百年後の森を想像し、自然界と交信しながら活動を継続していくことが重要とまと

められました。
(一社)日本森林技術協会からは、外来植物の駆除に当たって事業箇所・事前・事後の鳥類・昆虫類・陸産貝類・陸水動物・植生モニタリングの実施、再生力旺盛なアカギなどの駆除としての薬剤樹幹注入、特殊伐採(樹木の上から吊し伐りをしていく方法)、ペンチを用いた稚樹の抜き取りといった小笠原固有の森林生態系を修復するための方法や外来種を持ち込まないための作業上の配慮について報告がありました。

固有森林生態系への修復事業の成果

4-1 西島

モクマオウ駆除後に林内や周辺でツルワダンやオガサワラアザミが増えた。



モクマオウの駆除作業



駆除前



駆除後

林内や周辺が明るくなって、下層の植物が増えた!



ツルワダン



オガサワラアザミ

提供：日本森林技術協会

森づくり最前線

会津森林管理署 坂下森林事務所 首席森林官 佐藤 信雄

当森林事務所は会津森林管理署管内の中西部に位置し、会津坂下町、会津美里町、柳津町、三島町、金山町及び喜多方市、西会津町の一部を区域とする約2万3千畝の国有林を管理しています。

管内のほぼ全域は会津山地緑の回廊に、約8割が保安林に指定されています。また、国有林面積の65%がブナ、トチノキなどの広葉樹を主体とした天然林となっており、四季折々の景色が楽しめる場所が多くあります。

特に金山町には約1万年前の火山活動で誕生した外周約7kmのカルデラ湖の「沼沢湖」、柳津町には約1200年前に開創されたと伝えら



福満虚空蔵尊円蔵寺



沼沢湖

れる日本三大虚空蔵尊の一つで全国から参拝者が訪れる「福満虚空蔵尊円蔵寺」、標高1482mの「博士山」、三島町の標高1234mの「志津倉山」などは新緑、紅葉の時期には多くの観光客や登山者で賑わいを見せています。

また、金山町の本名地区には明治



本名スギ

維新以前から酒桶材料として使用され、大径木が少なくなったことから明治35年に村民により禁伐にされた「本名スギ」と呼ばれる天然のスギが国有林内にも残されており、現在はこの一帯を森林生態系保護地域に指定しています。

このように名所をはじめ見所の多い管内の森林施策の実施に当たっては、保安林や緑の回廊をはじめ多くの制限があることから、法令や通達等を十分に確認して行うなど細心の注意を払って実施しています。

また、林業の成長産業化を目指し低コスト造林にも取り組んでおり、

昨年、10月会津地域で初めて生産されたコンテナ苗が山出しの時期となったことから、管内の金山町の国有林において会津流域林業活性化センター

と共催し現地検討会を開催しました。

現地検討会には会津地域の福島県農林事務所、市町村及び林業関係者総勢54名が参加し、コンテナ苗の育苗方法、植栽方法などの説明を行った後、実際に植栽を体験するなど、

コンテナ苗に対する理解を深めることができました。

また、同地内に普通苗とコンテナ苗の育苗に使用したコンテナのサイズ毎(120、150、300CC)

の苗をそれぞれ比較ができるよう試験地を設定し、今後、活着率、成長量(苗長、根元径)などについて検

証していくこととしています。



会津地域産コンテナ苗現地検討会

最後に、これからも森林の持つ公益的機能の維持及び増進に向け取り組んでいくとともに、各種事業の実施に当たっては、これまで以上に地域との連携を深め、民有林国有林を問わず森林の施策などについての情報の提供や技術的な支援に努め、当地域の林業の発展に貢献できるように取り組んでいきたいと考えます。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393